

今年 言い残して 気になっていること

小豆澤 愛美子

11月の旅の題の時（山）の話をしましたが 私は山の形ばかりにとらわれていたのですが 皆様はすでに ご存知だったかもしれませんが、お話しました後 重大なことに気がつきました。

ランタン・リルン 登頂

1961年 大阪市立大学隊が 第一次遠征に挑戦しました。

雪崩が発生し、その直撃を受けて 隊長 隊員 シェルパー各一名、計3名が犠牲になりました。

この第一次遠征隊に藤本勇さんが参加しておられました。

雪崩の難をくぐり抜けて、私達と一緒におられるのを、とても嬉しく思います。

その後、市大隊は1964年に第2次遠征隊を出すも失敗しました。

1978, 10, 24 大阪市立隊は頂上を極めました。

吊い合戦の意でも執念の初登頂でした。

登頂したのは後輩の和田さんだそうです。

藤本勇さんにくわしいお話を伺いたいものです。

左の白く光っている雪だそうです。その東壁 その雪のしたは岩壁でここを登って行くのだそうです。



2021-2-19

藤本勇さん → 小豆澤さん

白川義貝さんの写真集の「世界百名山」からランタン・リルの写真を送って頂きありがとうございました。

私の一番大切な山を思い出してくれてありがとう。

今思えば私には三つの生死の境目をくぐり抜けた出来事があります。

まず第一はヒマラヤでの遭難です。1961年5月11日の早朝4時ごろに5600mの地点でテント3張りで全員が寝ているときに、大きなブロックが崩壊し雪崩を誘発した。まるでジェットコースターに乗っているような感じで流されたて寝袋から這い出してみると隊長と隊員とシェルパ1名が深いクレバスに落ちて行方不明。日本のヒマラヤ登山の遭難第一号。

ピッケルは流されテントの支柱をピッケル代わりにして下山しました。私にとっては忘れることの出来ない山です。

次は、皆様もご存知の日本航空の御巢鷹山での墜落事故です。

あの時、私は横浜で単身赴任で働いていました。家内が2か月には一回横浜に来て身の回りのかたづけをしてくれていました。お盆で自宅に帰るのにJAL123便を予約していました。

家内が来ましたのでチケットを追加しましたが、出来ませんでした。仕方なく車で帰郷することにしました。車の運転中ラジオが「JALが行方不明」と報じ、最後は山に墜落と報じました。

最後の事故は社会人になって取引先の人運転で和歌山に出かけました。帰りの時に前に行く大型バスを追い抜こうとしましたが、前からトラックが来ました。正面衝突は避けられましたが、大きな事故が発生した。4人乗っていたのが運転手は肋骨を折った。あとの二人は顔などを打って重傷。一人わたしだけは無傷でした。

よほど私は運の強い命を授かったものです。神に祈るばかりです。

2021-12-20